

## 感染症患者発生情報（週報）

### 埼玉県内情報 2025 年 第 29 週（7 月 14 日～7 月 20 日）

一類及び二類（結核を除く）感染症	報告なし		
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3 人	類型 患者 2 人、無症状病原体保有者 1 人 血清型 O157 2 人、不明 1 人
四類感染症	E 型肝炎	1 人	推定感染地域 国内
	マラリア	1 人	病型 不明
	レジオネラ症	1 人	病型 ポンティアック熱型
五類感染症	急性脳炎	1 人	病原体 エンテロウイルス
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 人	病型 古典型
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 人	血清群 A 群
	水痘（入院例）	1 人	病型 臨床診断例
	梅毒	14 人	病型 早期顕症Ⅰ期 5 人、 早期顕症Ⅱ期 6 人、 無症状病原体保有者 3 人
	百日咳	264 人	
	年齢階級	0 歳 2 人、1 歳 2 人、2 歳 3 人、3 歳 3 人、4 歳 3 人、 5 歳 6 人、6 歳 9 人、7 歳 18 人、8 歳 12 人、9 歳 26 人、 10 歳代 127 人、20 歳代 12 人、30 歳代 12 人、40 歳代 14 人、 50 歳代 9 人、60 歳代 3 人、70 歳代 3 人	
	麻疹	1 人	病型 検査診断例

#### <百日咳の患者情報>

百日咳は 264 人の報告（第 28 週以前に診断された患者を含む）があった（前週 260 人）。年齢階級別の患者数を患者の診断された週ごとに見ると、第 29 週に診断された患者 240 人のうち、10～14 歳は 86 人（全体の約 36%）と最も多く、次いで 5～9 歳の 63 人（約 26%）、15～19 歳の 29 人（約 12%）の順であった（図 1）。

（参考）埼玉県感染症対策課 最新の感染症情報（URL：[https://www.pref.saitama.lg.jp/a0710/news/widespread-infectious\\_disease.html](https://www.pref.saitama.lg.jp/a0710/news/widespread-infectious_disease.html)）

#### <定点把握疾患の患者情報>

**新型コロナウイルス感染症**（3.49→4.64：図 2）の定点当たり報告数は、第 25 週以降、増加傾向にある。保健所別では、朝霞（7.38→10.56）、狭山（4.46→7.38）保健所管内で大きく増加した。基幹定点における**入院患者**の報告は 25 人（前週 22 人）であった。**伝染性紅斑**（1.50→1.61：図 3）の定点当たり報告数は、前週と同水準であり、依然として多い状況にある。**ヘルパンギーナ**（0.81→1.19：図 4）の定点当たり報告数は、第 27 週以降、増加傾向にある。保健所別では、川口市（2.00→3.63）、越谷市（1.60→3.00）で大きく増加した。年齢階級別では、1 歳及び 2 歳の報告が多く、全体の 50%であった。**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**（4.14→4.14：図 5）の定点当たり報告数は、前週と同値であり、高い水準にある。**水痘**（1.48→0.80：図 6）の定点当たり報告数は、第 19 週以降増減を繰り返しつつ推移しており、やや多い状況にある。**急性呼吸器感染症**（76.48→78.82：図 7）の定点当たり報告数は、第 27 週以降、緩やかな増加傾向にある。眼科定点報告疾患では、**急性出血性結膜炎** 2 人、**流行性角結膜炎** 41 人の報告があった。基幹定点報告疾患では、**細菌性髄膜炎** 1 人、**無菌性髄膜炎** 2 人、**マイコプラズマ肺炎** 9 人の報告があった。

全国の感染症発生動向に関する情報は、国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト（URL：<https://id-info.jhs.go.jp/>）で御覧になれます。



図4 ヘルパンギーナの定点当たり報告数の推移

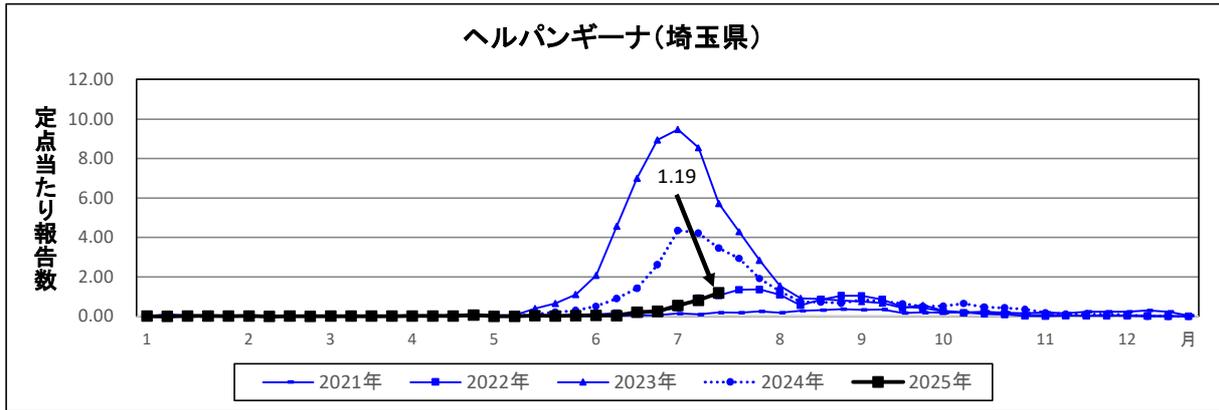


図5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数の推移

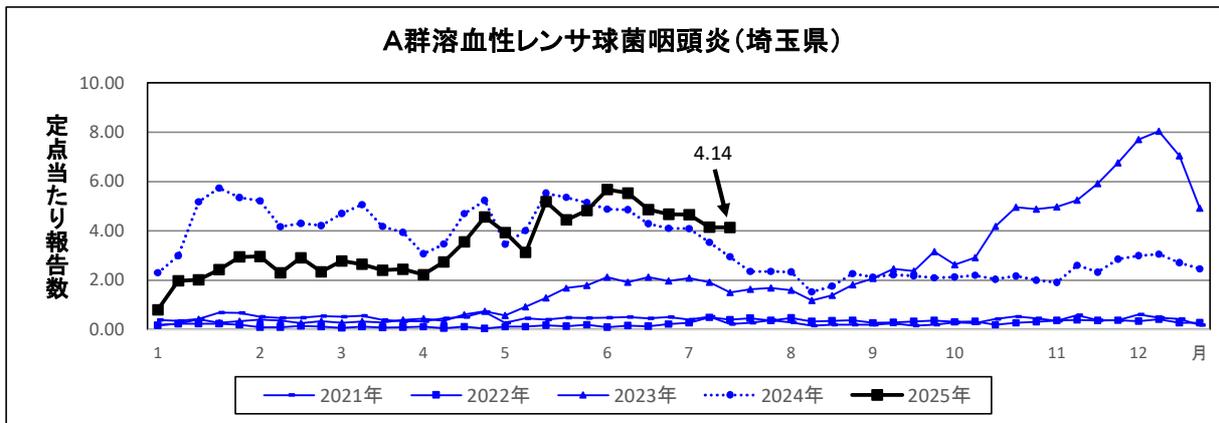


図6 水痘の定点当たり報告数の推移

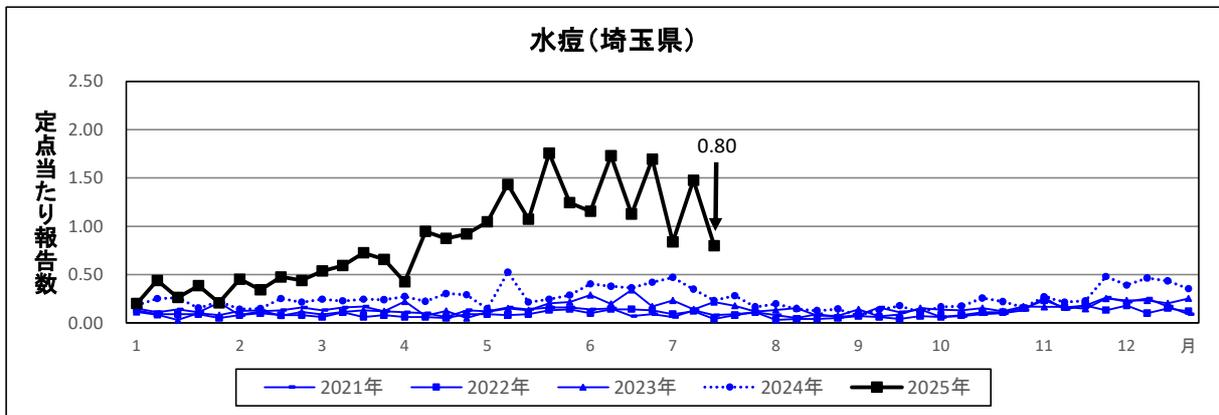
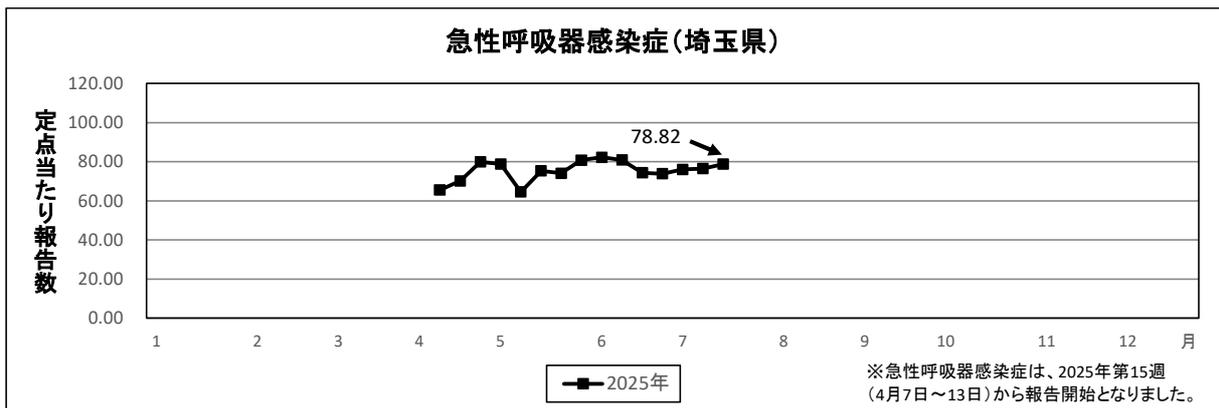


図7 急性呼吸器感染症の定点当たり報告数の推移



感染症発生状況(全数把握対象疾患)  
(第29週)

(2025年7月22日 15:15集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
<b>一類感染症</b>					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
<b>二類感染症</b>					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核*1	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
<b>三類感染症</b>					
コレラ			腸チフス		1
細菌性赤痢		1	パラチフス		
腸管出血性大腸菌感染症	3	67			
<b>四類感染症</b>					
E型肝炎	1	20	東部ウマ脳炎		
ウエストナイル熱			鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)		
A型肝炎		4	ニパウイルス感染症		
エキノコックス症			日本紅斑熱		
エムポックス			日本脳炎		
黄熱			ハンタウイルス肺症候群		
オウム病		1	Bウイルス病		
オムスク出血熱			鼻疽		
回帰熱			ブルセラ症		1
キャサナル森林病			ベネズエラウマ脳炎		
Q熱			ヘンドラウイルス感染症		
狂犬病			発しんチフス		
コクシジオイデス症			ボツリヌス症		
ジカウイルス感染症			マラリア	1	3
重症熱性血小板減少症候群			野兔病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱		1	レジオネラ症	1	51
つつが虫病		1	レプトスピラ症		
デング熱		1	ロッキー山紅斑熱		
<b>五類感染症</b>					
アメーバ赤痢		4	侵襲性肺炎球菌感染症		108
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		5	水痘(入院例に限る)	1	16
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		44	先天性風しん症候群		
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)			梅毒	14	301
急性脳炎	1	18	播種性クリプトコックス症		3
クリプトスポリジウム症		1	破傷風		3
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	5	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	41	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		3
後天性免疫不全症候群		20	百日咳	264	2550
ジアルジア症			風しん		
侵襲性インフルエンザ菌感染症		15	麻しん	1	9
侵襲性髄膜炎菌感染症		2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		

累計は診断日で集計

\*1 結核は月単位で集計、別に掲載します。

感染症発生状況(定点把握対象疾患)

報告患者数

保健所別

(2025年第29週

7月14日～7月20日)

保健所	インフルエンザ #1	新型コロナウイルス 感染症	急性呼吸器 感染症	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 #2		マイコプラズマ肺炎 #3		クラミジア肺炎 #3		感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		インフルエンザ (入院)		新型コロナウイルス 感染症 (入院)	
																報告数	定点当たり	報告数	定点当たり	報告数	定点当たり	報告数	定点当たり	報告数	定点当たり	報告数	定点当たり
全 県	報告数 47 定点当たり 0.27	808 4.64	13,715 78.82	36 0.33	88 0.81	451 4.14	655 6.01	87 0.80	48 0.44	176 1.61	58 0.53	130 1.19	12 0.11	2 0.05	41 0.95	1 0.08	2 0.17	9 0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	25 2.08
朝 霞	報告数 12 定点当たり 0.75	169 10.56	1,084 67.75	1 0.10	4 0.40	38 3.80	49 4.90	12 1.20	1 0.10	8 0.80	4 0.40	9 0.90	2 0.20	-	2 0.40	-	1 1.00	3 3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	3 3.00
鴻 巣	報告数 3 定点当たり 0.25	93 7.75	1,395 116.25	1 0.14	11 1.57	42 6.00	62 8.86	6 0.86	1 0.14	18 2.57	6 0.86	7 1.00	2 0.29	-	8 2.67	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
東 松 山	報告数 - 定点当たり -	8 2.00	357 89.25	-	-	3 1.00	37 12.33	1 0.33	1 0.33	4 1.33	2 0.67	3 1.00	3 1.00	-	1 1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秩 父	報告数 - 定点当たり -	5 1.25	103 25.75	-	-	8 2.67	-	-	2 0.67	1 0.33	-	2 0.67	-	*	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本 庄	報告数 - 定点当たり -	8 2.00	174 43.50	-	3 1.00	-	-	4 1.33	1 0.33	13 4.33	1 0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 1.00	
熊 谷	報告数 1 定点当たり 0.11	26 2.89	596 66.22	1 0.20	3 0.60	12 2.40	24 4.80	1 0.20	3 0.60	14 2.80	5 1.00	7 1.40	1 0.20	-	2 1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 2.00	
加 須	報告数 - 定点当たり -	20 4.00	162 32.40	4 1.33	-	4 1.33	-	1 0.33	-	14 4.67	1 0.33	-	-	-	3 3.00	-	-	2 2.00	-	-	-	-	-	-	-	1 1.00	
春 日 部	報告数 1 定点当たり 0.20	28 5.60	790 158.00	3 1.50	11 5.50	27 13.50	33 16.50	-	1 0.50	1 0.50	4 2.00	3 1.50	-	-	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
幸 手	報告数 2 定点当たり 0.22	86 9.56	1,382 153.56	7 1.40	6 1.20	19 3.80	30 6.00	4 0.80	1 0.20	23 4.60	3 0.60	9 1.80	-	-	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
坂 戸	報告数 - 定点当たり -	14 3.50	399 99.75	-	1 0.33	3 1.00	39 13.00	2 0.67	-	12 4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 2.00	
草 加	報告数 6 定点当たり 0.55	62 5.64	577 52.45	1 0.14	3 0.43	19 2.71	42 6.00	1 0.14	4 0.57	11 1.57	7 1.00	1 0.14	-	-	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
狭 山	報告数 8 定点当たり 0.62	96 7.38	715 55.00	2 0.20	7 0.70	57 5.70	50 5.00	8 0.80	4 0.40	25 2.50	-	4 0.40	1 0.10	-	8 1.60	-	1 1.00	1 1.00	-	-	-	-	-	-	-	1 1.00	
南 部	報告数 3 定点当たり 0.60	19 3.80	429 85.80	3 1.00	3 1.00	25 8.33	32 10.67	11 3.67	6 2.00	2 0.67	2 0.67	6 2.00	-	-	-	-	-	1 1.00	-	-	-	-	-	-	-	1 1.00	
川 越 市	報告数 7 定点当たり 0.78	13 1.44	809 89.89	-	10 2.00	26 5.20	9 1.80	8 1.60	6 1.20	7 1.40	3 0.60	5 1.00	-	-	3 1.50	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
越 谷 市	報告数 - 定点当たり -	16 2.00	668 83.50	-	5 1.00	11 2.20	24 4.80	3 0.60	2 0.40	10 2.00	2 0.40	15 3.00	-	-	1 0.50	-	-	2 2.00	-	-	-	-	-	-	-	3 3.00	
川 口 市	報告数 1 定点当たり 0.07	58 4.14	961 68.64	2 0.25	-	23 2.88	51 6.38	10 1.25	3 0.38	7 0.88	2 0.25	29 3.63	1 0.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5 5.00	
さいたま市	報告数 3 定点当たり 0.07	87 2.07	3,114 74.14	11 0.41	21 0.78	134 4.96	173 6.41	15 0.56	12 0.44	6 0.22	16 0.59	30 1.11	2 0.07	1 0.11	13 1.44	1 1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6 6.00	

( - : 0.00 )

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む #3 オウム病を除く

7月 22日 14:30 集計

感染症発生状況(定点把握対象疾患)

報告患者数

年齢別

(2025年第29週

7月14日~7月20日)

	合計	-6ヵ月	-12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ #1	47	-	2	-	4	2	2	1	3	4	-	3	6	2	2	8	1	-	6	-	1
新型コロナウイルス感染症	808	4	5	12	10	3	2	8	-	5	2	4	43	47	83	94	115	154	88	73	56
	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~								
急性呼吸器感染症	13,715	903	5,227	3,285	1,368	400	406	508	417	444	292	255	210								
	合計	-6ヵ月	-12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~						
RSウイルス感染症	36	5	5	14	8	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
咽頭結膜熱	88	1	3	28	13	14	12	4	8	-	4	-	1	-	-						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	451	-	1	19	19	30	52	60	62	53	40	39	62	3	11						
感染性胃腸炎	655	6	48	86	66	65	60	67	35	43	33	32	82	6	26						
水痘	87	3	1	7	3	3	5	6	7	8	9	12	21	-	2						
手足口病	48	3	8	15	5	3	6	1	3	1	1	2	-	-	-						
伝染性紅斑	176	-	-	18	10	21	30	32	21	20	9	5	8	-	2						
突発性発しん	58	-	6	40	8	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ	130	-	13	34	31	13	13	7	4	5	6	1	2	-	1						
流行性耳下腺炎	12	-	-	-	-	1	1	1	3	1	2	2	1	-	-						
	合計	-6ヵ月	-12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	
流行性角結膜炎	41	-	1	-	-	1	4	1	-	1	-	1	4	2	4	7	8	4	1	2	
	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~				
細菌性髄膜炎 #2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-				
無菌性髄膜炎	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
マイコプラズマ肺炎	9	-	1	1	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1			
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
インフルエンザ(入院)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
新型コロナウイルス感染症(入院)	25	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	21				

※ 表中の数値は各定点からの報告数( - : 0 )

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

# 全国・関東情報

第27週 (6月30日～7月6日)

令和7年7月23日

## <全国情報>

**急性呼吸器感染症定点報告疾患(報告定点数:3,858)**:インフルエンザの定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は沖縄県(4.96)、新潟県(0.85)、愛媛県(0.63)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は41例と前週と比較して増加した。都道府県別では14都道府県から報告があり、年齢群別では1～9歳(13例)、10代(1例)、40代(1例)、50代(2例)、60代(1例)、70代(11例)、80歳以上(12例)であった。新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別の上位3位は沖縄県(16.36)、山梨県(3.26)、千葉県(3.11)である。基幹定点からの新型コロナウイルス感染症入院サーベイランスにおける報告数は616例と前週と比較して増加した。都道府県別では46都道府県から報告があり、年齢群別では0歳(21例)、1～9歳(26例)、10代(8例)、20代(10例)、30代(11例)、40代(12例)、50代(24例)、60代(59例)、70代(148例)、80歳以上(297例)であった。急性呼吸器感染症(報告定点数:3,852)定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は栃木県(77.81)、群馬県(76.69)、埼玉県(76.10)である。

**小児科定点報告疾患(主なもの)(報告定点数:2,358)**:RSウイルス感染症の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別の上位3位は沖縄県(3.72)、山形県(1.31)、福島県(1.29)である。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は島根県(1.64)、鹿児島県(1.55)、佐賀県(1.25)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第24週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は栃木県(5.04)、愛媛県(4.95)、埼玉県(4.66)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第21週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期の平均と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は愛媛県(10.14)、岐阜県(9.11)、宮崎県(8.40)である。水痘の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は神奈川県(0.87)、埼玉県(0.84)、富山県(0.72)である。手足口病の定点当たり報告数は第23週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は奈良県(1.63)、大阪府(1.18)、高知県(0.95)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は山形県(5.88)、群馬県(5.56)、石川県(5.04)である。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第19週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は山口県(7.15)、福岡県(6.51)、佐賀県(5.83)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は大分県(0.25)、宮崎県(0.20)、愛媛県(0.19)である。

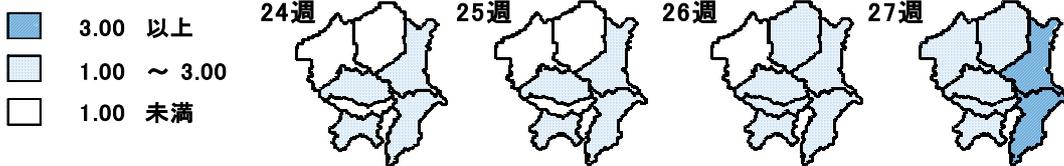
**基幹定点報告疾患**:マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期の平均と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は秋田県(5.25)、鹿児島県(2.25)、熊本県(1.93)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は増加した。9都道府県から16例報告があり、年齢群別では1～4歳(1例)、5～9歳(11例)、10代(1例)、70歳以上(3例)であった。

Infectious Diseases Weekly Report Japan 2025年 第27週(6月30日～7月6日):通巻第27巻 第27号 より

## <関東情報>

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、千葉県(3.11)、茨城県(3.07)からの報告が多い。

## 新型コロナウイルス感染症



		2025年 27週								
		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	1,095	314	31	18	-	56	30	104	75
	定点当たり	0.28	0.27	0.46	0.38	-	0.32	0.16	0.25	0.32
新型コロナウイルス感染症	報告数	7,615	2,638	209	95	47	442	579	690	576
	定点当たり	1.97	2.24	3.07	2.02	1.04	2.51	3.11	1.65	2.42
急性呼吸器感染症	報告数	203,039	75,843	4,606	3,657	3,451	13,393	11,957	22,706	16,073
	定点当たり	52.71	64.27	67.74	77.81	76.69	76.10	64.28	54.32	66.97
RSウイルス感染症	報告数	821	219	11	9	8	66	22	55	48
	定点当たり	0.35	0.30	0.29	0.33	0.32	0.59	0.19	0.21	0.34
咽頭結膜熱	報告数	1,580	453	17	13	23	107	62	136	95
	定点当たり	0.67	0.63	0.45	0.48	0.92	0.96	0.53	0.52	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	5,565	2,378	137	136	62	517	420	741	365
	定点当たり	2.36	3.29	3.61	5.04	2.48	4.66	3.56	2.82	2.59
感染性胃腸炎	報告数	12,819	4,026	196	109	174	689	576	1,583	699
	定点当たり	5.44	5.57	5.16	4.04	6.96	6.21	4.88	6.02	4.96
水痘	報告数	934	450	7	2	3	93	47	175	123
	定点当たり	0.40	0.62	0.18	0.07	0.12	0.84	0.40	0.67	0.87
手足口病	報告数	1,215	276	5	5	7	50	27	131	51
	定点当たり	0.52	0.38	0.13	0.19	0.28	0.45	0.23	0.50	0.36
伝染性紅斑	報告数	5,474	1,086	124	132	139	207	142	163	179
	定点当たり	2.32	1.50	3.26	4.89	5.56	1.86	1.20	0.62	1.27
突発性発しん	報告数	880	259	9	21	19	44	21	95	50
	定点当たり	0.37	0.36	0.24	0.78	0.76	0.40	0.18	0.36	0.35
ヘルパンギーナ	報告数	3,451	449	13	37	9	62	57	208	63
	定点当たり	1.46	0.62	0.34	1.37	0.36	0.56	0.48	0.79	0.45
流行性耳下腺炎	報告数	179	66	3	1	4	11	9	18	20
	定点当たり	0.08	0.09	0.08	0.04	0.16	0.10	0.08	0.07	0.14
急性出血性結膜炎	報告数	16	3	-	-	-	1	2	-	-
	定点当たり	0.02	0.01	-	-	-	0.02	0.06	-	-
流行性角結膜炎	報告数	629	303	61	19	26	25	67	28	77
	定点当たり	0.90	1.44	3.59	1.58	1.86	0.58	1.91	0.74	1.48
細菌性髄膜炎 #2	報告数	9	1	-	-	-	-	-	-	1
	定点当たり	0.02	0.01	-	-	-	-	-	-	0.08
無菌性髄膜炎	報告数	32	6	1	1	1	1	-	1	1
	定点当たり	0.07	0.07	0.08	0.14	0.11	0.08	-	0.04	0.08
マイコプラズマ肺炎	報告数	360	54	10	6	14	8	1	11	4
	定点当たり	0.75	0.62	0.77	0.86	1.56	0.67	0.11	0.44	0.33
クラミジア肺炎 #3	報告数	3	2	-	-	-	1	-	1	-
	定点当たり	0.01	0.02	-	-	-	0.08	-	0.04	-
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	報告数	16	1	-	-	-	-	-	-	1
	定点当たり	0.03	0.01	-	-	-	-	-	-	0.08

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-:0.00)

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2024 年)

埼玉県で 2024 年に分離され、衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は 155 株でした。分離された 155 株の O 血清型・毒素型別を表 1~2 に示しました。最も多く検出された O 血清型は O157 で 80 株 (51.6%) でした。そして O26 が 12 株 (7.7%)、O103 が 9 株 (5.8%)、O115 が 5 株 (3.2%) と続きました。毒素型については、O157 は VT1&2 産生株が 50 株、VT2 単独産生株が 30 株、O26 は VT1 単独産生株が 12 株でした。

分離された 155 株の内訳は、有症者由来が 91 株 (58.7%)、無症状病原体保有者由来が 64 株 (41.3%) でした。血清型別の有症率をみると、最も多く検出された O157 では 76.3% (61 株/80 株)、O26 では 91.7% (11 株/12 株)、O103 は 55.6% (5 株/9 株) で、これらの血清型では有症者が 5 割以上を占めていました。一方で、OUT (Untypable) として届出のあったものでは有症率が 25.8%(8 株/31 株)と、無症状病原体保有者が 7 割以上を占めていました。

表1 腸管出血性大腸菌のO血清型別検出数(2024年)

O血清型	有症	無症状	合計
O157	61	19	80
O26	11	1	12
O103	5	4	9
O115	1	4	5
O91	1	3	4
O128	1	3	4
O55	1	2	3
O111	2	0	2
O8	0	2	2
O25	0	1	1
O121	0	1	1
O145	0	1	1
OUT	8	23	31
合計	91	64	155

表2 O157株及びO26株の毒素型別検出数(2024年)

O血清型	毒素型	有症	無症状	合計
O157	VT1	0	0	0
	VT2	21	9	30
	VT1&2	40	10	50
合計		61	19	80

O血清型	毒素型	有症	無症状	合計
O26	VT1	11	1	12
	VT2	0	0	0
	VT1&2	0	0	0
合計		11	1	12

直近 5 年間の OUT 株の検出数を表 3 に示しました。総検出数に対する割合は、2020 年 5.7% (5 株/87 株)、2021 年 14.4% (16 株/111 株)、2022 年 15.1% (18 株/119 株)、2023 年 6.8% (10 株/148 株)、2024 年 20.0% (31 株/155 株) となっており、2024 年は過去 4 年と比較して多く検出されました。なお、有症率については、いずれの年も 4 割以下でした。

表3 OUT株の検出状況(年別)

年	有症	無症状	合計
2020年	2	3	5(87)
2021年	3	13	16(111)
2022年	3	15	18(119)
2023年	3	7	10(148)
2024年	8	23	31(155)

※()内は腸管出血性大腸菌の県内年間検出数

これら 155 株の薬剤感受性試験を行ったところ、セフォキシチン及びセフポドキシム耐性株が 2 株、シプロフロキサシン及びノルフロキサシン耐性株が 1 株確認されました。なお、ホスホマイシン耐性を有する株は確認されませんでした。その他の薬剤耐性は耐性率が高いものから順に、ストレプトマイシン 41 株 (26.5%)、テトラサイクリン 31 株 (20.0%)、クロラムフェニコール 21 株 (13.5%)、アンピシリン 15 株 (9.7%)、ST 合剤 9 株 (5.8%)、カナマイシン 8 株 (5.2%)、ナリジクス酸 4 株 (2.6%) が確認されました。

そのほか、喫食歴と腸管出血性大腸菌の関連につきましては、2024 年は少なくとも 9 株は、韓国でユッケや生レバーの喫食歴のある方から検出されました。ユッケや生レバーなど、加熱不十分な食肉及び内臓は、国内・国外問わずハイリスクな食品であることに変わりありません。十分な加熱を行って喫食することを改めて注意喚起していかなくてはなりません。

腸管出血性大腸菌感染症が多発する夏季を迎えました。的確な情報提供を通じて、感染拡大防止への一助となるよう努めて参ります。

感染症発生動向調査  
2025年

- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第1週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第2週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第3週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第4週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第5週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第6週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第7週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第8週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第9週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第10週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第11週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第12週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第13週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第14週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第15週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第16週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第17週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第18週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第19週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第20週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第21週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第22週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第23週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第24週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第25週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第26週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第27週](#)
- ▶ [感染症の流行状況 2025年 第28週](#)

## 感染症の流行状況 2025年 第29週

2025年第29週（7月14日～7月20日）は、百日咳は多い状況が続いており、新型コロナウイルス感染症は増加傾向にあります。  
[咳エチケット](#)、外出後の手洗いとともに、十分な休養をとるよう心掛けてください。また、体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早めに受診してください。

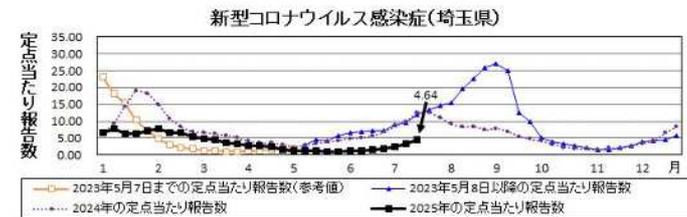
### 全数把握対象疾患（百日咳）

年齢階級別の患者数を患者の診断された週ごとに見ると、第29週に診断された患者240人のうち、10～14歳は86人（全体の約36%）と最も多く、次いで5～9歳の63人（約26%）、15～19歳の29人（約12%）の順でした。



### 定点把握対象疾患（新型コロナウイルス感染症）

定点当たり報告数は4.64で、第25週以降、増加傾向にあります。



### 感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
<a href="#">インフルエンザ</a>	→	★	<a href="#">手足口病</a>	→	★
<a href="#">新型コロナウイルス感染症</a>	↑	—	<a href="#">伝染性紅斑（りんご病）</a>	→	★★★
<a href="#">急性呼吸器感染症</a>	↑	—	<a href="#">突発性発しん</a>	→	★
<a href="#">RSウイルス感染症</a>	→	★	<a href="#">ヘルパンギーナ</a>	↑	★★
<a href="#">咽頭結膜熱（プール熱）</a>	→	★★	<a href="#">流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）</a>	→	★
<a href="#">A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</a>	→	★★★	<a href="#">急性出血性結膜炎</a>	→	★
<a href="#">感染性胃腸炎</a>	→	★	<a href="#">流行性角結膜炎</a>	↑	★★
<a href="#">水痘（みずぼうそう）</a>	→	★★			

\*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。\*2.推移は2週間前からの傾向を示します。（→:増減無し、↑:増加、↓:減少）\*3.流行状況は今週の流行を示します。（小さい→★、★★、★★★→大きい）\*4.2025年第14週から定点医療機関の指定数が増えとなりました。疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。また、全国の感染症発生動向状況については、国立健康危機管理研究機構のホームページ「[感染症情報提供サイト](#)」をご覧ください。